プラットフォーム名：地域を支える人材育成プラットフォーム

様式２）中長期計画に対する自己評価（１ページ以内）　※計画策定から１年以上のプラットフォームのみ記入

全体評価	
B	Ｓ：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 Ａ：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 Ｂ：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。 Ｃ：当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。 Ｄ：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。

評価理由

今年度も、プラットフォームに参画する 5 大学による多職種連携教育を継続し、大学・学部の枠を越えて学生が相互に学ぶ機会を通じて、各専門職の役割への理解と、実践に必要な連携能力の涵養を図った。また、各大学の特色を踏まえた教育・研修内容の検討に加え、FD・SD 研修会及び IR 合同研修会を実施した。IR 合同研修会の成果は報告書として取りまとめ、参画大学間で共有することにより、教職員の資質向上及び教育の質の改善につなげた。

小学生を対象とした職業講座では、教育機関や自治体に加えて地元産業界の参画を得ることで、医療・福祉・教育分野から地域の多様な職業へと学習内容を広げ、職業理解を促進した。高校生を対象とした大学研究室訪問では、受入大学及び参加高校が増加し、各大学の研究内容に触れる機会を拡充するとともに、将来の進路選択に資する学びを提供した。さらに、公開講座の開催数が増加し、地域住民等に対する学習機会の拡充と、提供する学習内容の多様化を図ることができた。

一方、施設・設備の利用者数及びボランティア活動の参加者数は目標値を下回った。これらの課題について参画団体間で共有し、実施計画や周知方法の見直しを通じて、利用及び参加の促進を図る。今後は、地域や参加者のニーズを踏まえ、参画大学及び団体が有する教育資源や専門性を活用し、各取組の充実を図ることで、地域と連携した人材育成体制を強化し、地域社会の課題解決に寄与する人材の育成を進める。

評価に関する備考（考慮すべき事項）

特になし。

プラットフォーム名：地域を支える人材育成プラットフォーム

様式３）達成目標・活動指標等（おおむね１０頁以内）※計画策定から１年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
地域の高等教育機関では、地域マインドを持った医療･教育･福祉の人材育成が十分ではない。	大学間で、学生の地域課題解決型の授業の受講、教職員の授業方法の改善や能力向上の推進、調査結果の分析･比較等を行い、学部･大学を越えた専門職連携を現場で実践する基盤づくりをする。	（取組１） 地域の課題解決を題材とした科目「アセンブリⅢ」の受講	（取組１の活動指標） 地域で活躍できる専門職の養成　1,000 人以上	（取組１の活動実績） 学部･大学の垣根を超えて、コミュニケーション力、チームワーク構築、多職種連携を学びながら、地域への視点を持った人材をプラットフォームの大学合わせて毎年 1,000 人輩出している。	A
		（取組２） FD・SD の開催	（取組２の活動指標） FD・SD の実施　2 回以上	（取組２の活動実績） 「学生相談室でできること」「アセンブリ教育ワークショップ 1」「1 コマからできる授業設計ワークショップ」等、5 回開催した。	A
		（取組３） 施設・設備の利用者の拡大	（取組３の活動指標） 施設・設備の利用　10 人以上	（取組３の活動実績） プラットフォーム間で 8 名の学生が施設・設備を利用した。	B
		（取組４） 共同 IR の実施	（取組４の活動指標） 授業以外の学習時間に関する共同 IR 研修会の実施　1 回以上	（取組４の活動実績） 2025 年 9 月 2 日に合同研修会を実施し、その内容をまとめた報告書を作成した。運営委員会では、参画団体間で情報の共有と議論を行った。	A
		（取組５） ボランティア活動の参加	（取組５の活動指標） ボランティア活動の参加　20 人以上	（取組５の活動実績） 実績なし	D

プラットフォーム名：地域を支える人材育成プラットフォーム

様式３）達成目標・活動指標等（おおむね１０頁以内）※計画策定から１年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
一般市民や自治体職員、医療・福祉関係者等への知識の普及が十分ではない。	一般市民に知ってほしい身近な家族の介護や地域の見守りの方法、自治体職員や医療・福祉関係者に役立つ専門的な技術に関する情報を普及する。	（取組１） 受講者のレベルに合わせた公開講座の開催	（取組１の活動指標） 公開講座の開催　10 回以上	（取組１の活動実績） 「医教連携フォーラム」「食物アレルギー対応講習会開催のための指導者養成」「学校における食物アレルギー対応講習会」「小学生対象職業講座」「公開講座チャレンジ」「小児食物アレルギーによるアナフィラキシー対応講習会」等、18 回開催した。	A
地域共生社会を形成していく子どもたちの教育ができる人材の育成や知識の普及が十分ではない。	小学校から大学まで連続した知識の普及と環境づくりをする。 小学校から大学まで連続した知識の普及と環境づくりをする。	（取組１） 地域の子ども・保護者・教員等への教育の場の提供	（取組１の活動指標） 地域への教育支援活動　１回以上	「小学生対象職業講座」の 1 回を開催した。	A
		（取組２） 教育現場と連携した小・中学生への講座の開催	（取組２の活動指標） 小・中学生を対象とした講座の開催　１回以上	開催無し。	D
		（取組３） 教育現場と連携した高校生への講座の開催	（取組３の活動指標） 高校生を対象とした講座の開催　１回以上	「研究室訪問」を 7 回開催した。	A
海外に対して取組のアピールが不足しており、海外の学生に大学の魅力を十分に伝えられていない。	世界に開かれた大学を目指し、海外の学生に向けた大学紹介の機会を増加させる。	（取組１） 大学合同の外国人留学生向けのオンライン説明会の開催	（取組１の活動指標） 外国人留学生に対する合同大学説明会の実施　１回以上	本プラットフォームの目的や、各大学の概要、研究分野、特色あるプログラム、学生生活などに関してプレゼンテーションを行い、その後質疑応答を実施した。	A